

令和元年度 文京区立本郷小学校 授業改善推進プラン（家庭科）

身に付けさせたい力	高学年	
	5年	衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、身近な生活に活用できる力を付ける。
	6年	5年生で学んだことを基にし、衣食住などに関する体験的な活動を通して技能を身に付けるとともに、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な力を付ける。



児童の実態	高学年	
	5年	○学習全般への興味・関心が高い児童がいる一方で、実習のみ取り組もうとしたり、他人事を感じたりしている児童もいる。 ○知識面、技能面については、経験に個人差があり、基礎・基本からの細やかな指導、助言を要する児童もいる。
	6年	○学習への興味・関心は高く、意欲的に取り組む児童が多いが、中には必要性を感じていない児童もいる。 ○学んだことを生かし、家庭で実践できる児童もいるが、そこまで至っていない児童もいる。



授業改善の具体的な手立て	高学年	
	5年	○自分の生活を見つめながら、実践的・体験的な活動を通して学び、学んだことを生活に生かすことができるように振り返る時間を設ける。 ○ノートや学習シートを活用し、知識を定着させると共に、実践に生かせるようにする。家庭で取り組む課題を出すことで、用具や材料の違いを考えながら取り組めるようにする。
	6年	○知識・技能面の充実・向上を目指し、5年時との違いを意識して取り組ませていく。 ○学習したことを繰り返し実践するだけでなく、課題を出すことで、家庭で生かす機会を増やす。その際、保護者からも一言頂くことで、家族の一員として役立っていることに気付かせる。



成果(○)と課題(●)	高学年	
	5年	○手立てによって興味・関心を持たせることができ、家庭での実践にも取り組めた。 ●授業では意欲的に取り組んでいる児童もいたが、学んだことを生活で生かすことができたかという点については、個人差が大きい。家庭でもできる課題を設定して取り組ませていくなどの手立てが必要だと考える。
	6年	○5年生に比べて技術面の向上が見られ、日常生活に活用しようとする意欲や態度が育ってきた。 ●5年生同様、学んだことを生活で生かすことができたかという点については、個人差がある。また、裁縫の学習では、5年生で行った玉結びや玉止め、ミシンの使い方などの技術が定着していない児童もいた。繰り返し経験させることで、知識や技能の向上を目指し、家庭でも実践する機会に繋げていきたい。